



安全・安心に暮らせる村づくり ～生活支援体制整備の取組み～





十津川村の概要

紀伊半島のほぼ中央。
奈良県の最南端



- ◆ 面積 672.35平方キロメートル
- ◆ 奈良県の5分の1 日本一広い村です。
- ◆ 琵琶湖や淡路島よりも大きい
- ◆ 村の96%が森林
- ◆ 急峻な地形の緩やかな部分に集落が点在
- ◆ 過疎・少子高齢化

人口 3,617人 (10月1日現在)

世帯数 1,866世帯(10月1日現在)



十津川村の概要



村の構成

7つの区

55の大字

高齢者の状況

高齢化率
42.7%
(10/1時点)

独居高齢者世帯
292世帯
(10/1時点)



高齢者と若者が 安全・安心に暮らせる村づくり やりがい、助け合いの集落づくり

集落づくりプロジェクト

介護保険に跳ね返らない住まい方
みんなで住む安心感

介護度(軽度)



自宅



畑仕事でやりがいを!

高森のいえ
高齢者向け住宅

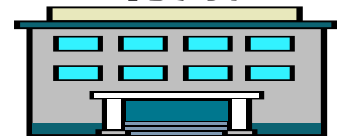


軽度の作業で
やりがいを!

村内での居住希望
村内に住めば村内で消費

介護度(重度)

特別養護老人ホーム
(村内)



36床(満床)

現状

村外
子供宅

村外の施設へ約80人
その額約1.7億円/6億円

介護保険料
県内第3位

約70人
待ち



「高森のいえ」と地域包括ケア

・地域包括ケアの理念と目指す姿

①医療との連携強化

出張診療の検討(既に村内3か所実施中)

②介護サービスの充実強化

介護ステーション近くへの居住でサービスUP

③予防の推進

畑仕事や軽作業で要介護状態にならないよう

④見守り・配食・買い物等生活支援サービス

独居者増加により配食要望多数

⇒ **生活・介護支援
サポーター**

⑤高齢期でも住みつつげられる住まいの整備

見守り助け合いながら生涯住みつつげられる「高森のいえ」



生活・介護支援 サポーター養成講座

* 地域で高齢者の生活を支える住民参加型サービスを作り出すとともに、その担い手(サポーター)を養成

生活・介護支援サポーター
養成講座 受講者募集!

参加者募集!
受講料無料!



日時 平成27年11月28日(土)~30日(月)
場所 十津川村役場1階 第1会議室
参加費 無料
対象 村民の方どなたでも参加できます
【定員30名】
★11月20日(金)までにお電話でお申し込みください。
十津川村福祉事務所 電話 62-0901

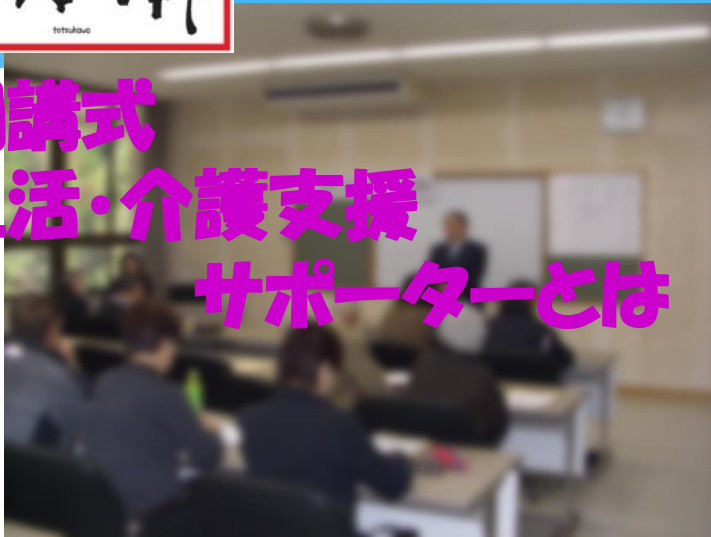
日	曜日	時間	科目
28	土	9:00~ 12:00	開講式 生活・介護支援サポーターとは
		13:00~ 16:00	地域でサポートするときの人との 関わり方
29	日	08:30~ 13:00 ※昼食休憩含む	あなたのコミュニケーションを 活かすために地域の活動を知ろう
		13:00~ 16:00	自分のこれからを考えてみよう
30	月	09:00~ 14:00 ※昼食休憩含む	活動体験(役場・警察・消防・高森の郷等の見学)
		14:00~ 15:30	振り返り・まとめ 修了式



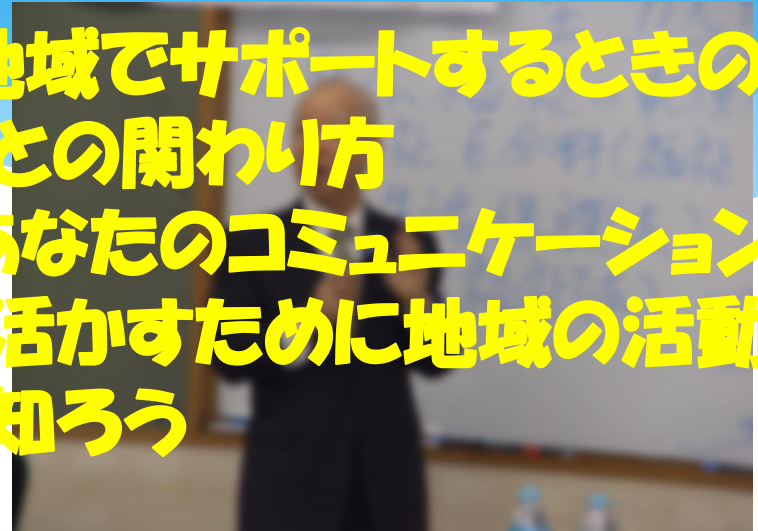
講座の様子

(開講式、レクチャー、グループワーク)

- ・開講式
- ・生活・介護支援
サポーターとは



- ・地域でサポートするときの
人との関わり方
- ・あなたのコミュニケーション
を活かすために地域の活動を
知ろう



- ・自分のこれからを
考えてみよう



- ・発表



警察署

《活動体験の様子》

- ・特殊詐欺
 - ・高齢者に関わる交通事故
 - ・認知症問題
- など



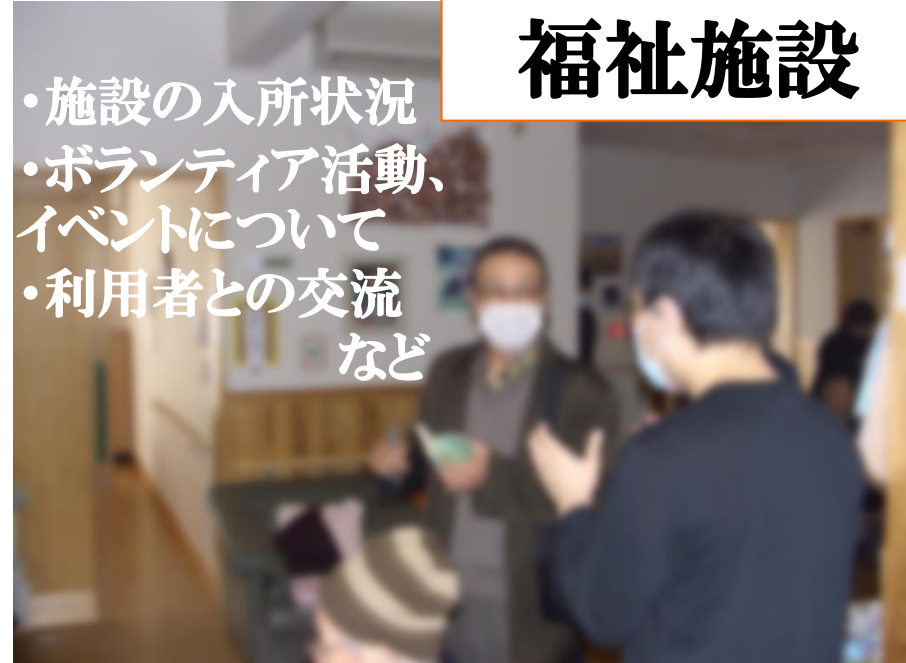
- ・消防車、災害救助車のしくみ
 - ・119ダイヤルについて
- など

消防署



福祉施設

- ・施設の入所状況
 - ・ボランティア活動、イベントについて
 - ・利用者との交流
- など





活動体験の感想

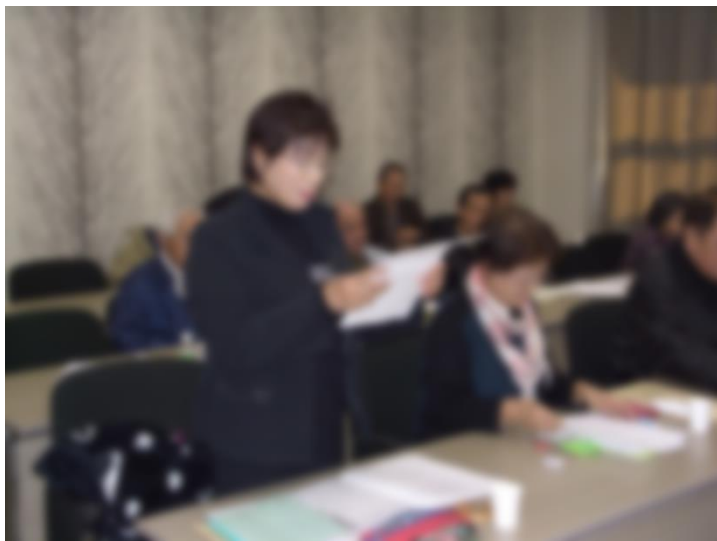
- ・警察では、村民の安心、安全を守り、高齢者等の交通事故、詐欺、行方不明者等の対策をしていただいているのがわかった。
- ・福祉施設は、大変（自然が）豊かな場所で、施設内も広く、木目をベースにしており暖かさを感じ良かった。また、職員の方々が入居者の方に対して、笑顔で接しておられるのが良かった。
- ・初めて、救急車両や消防車両を見せて頂き、災害や火事、救急の際には安心できると思った。救急車を要請しても病院までの距離が遠く改善してほしい。ドクターヘリは昼間は要請できるが、夜間帯は不安。



振り返り、修了式

**3日間を通して、27名が参加
(部分参加含む)**

**内、12名が養成講座の修了証を授与され、
生活・介護支援サポーターとなられた**





総合事業移行に向けての 今後の展望および課題

- * 年度内に、2回目の生活・介護支援サポーター養成講座を実施(平成28年3月末に実施予定)
- * 地域資源の調査・発掘及び協議体、生活支援コーディネーターの設置(今年度中に実施)
- * 生活・介護支援サポーターのフォローアップの取組み、工夫(今後の課題)